



2025年度  
第47号

# 体育市民連帯 ニュースレター

**最低学力制** X 平日試合禁止  
X 体育特技者  
体育人 VS  
元スポーツ革新委員たち



**学校体育振興フォーラム**  
持続可能な  
学校体育生態系の  
構築が必要



大学体育特技生として入学  
させる」2000万ウォンを  
受け取った野球部監督を  
暴露して起きた出来事



廃校→未来学校体育の姿  
学生スポーツセンターの  
良い例  
開館4年で訪問者急増



大韓体育会長選挙  
制度改善論議本格化  
23日、国会で  
公聴会開催



大韓民国スポーツの  
根本的変化を  
皆さんと共に  
作って行きたいです  
体育市民連帯と共に  
していただけますか？



\*

## 01 スポーツ朝鮮 2025.12.22

## 「最低学力制 X 平日試合禁止 X 体育特技者」体育人 VS 元スポーツ革新委員たち



2019年文化体育観光部傘下のスポーツ革新委員会7次勧告その後、6年ぶりに当時のスポーツ革新委員らとスポーツ現場の初の「相棒」討論が実現した。

韓国体育学会が20日、ソウル松坡区のオリンピックパークテルで開かれた2025年国際スポーツ科学シンポジウムで開かれた討論の場を設けた。

スポーツ革新委は「故チエ・スクヒョン事件」直後、体育分野の(性)暴力など人権侵害根絶対策の一環としてスタートした民官合同委員会で、2019年2月から1年間体育界構造改革のために▶スポーツ人権保護▶選手育成システム改善▶スポーツ公正文化定着などを内容に計7次に経て52ヶ課題を勧告した。スポーツ倫理センター設立、スポーツ基本法制定、合宿所全面廃止、正規授業後の訓練などの政策が履行され、学期中の平日大会参加禁止(出席認定日数縮小)、最低学歴未充足時の大会参加禁止などは現実を無視した一方で苛酷な「規制」政策という非難の中で保護者たちの強力な抵抗にぶつかった。

スポーツ革新委員出身のチョン・ヨンチョル西江大教授(体育市民連帶執行委員長)が「別れる決心:韓国エリートスポーツの未来のための苦言」、モーグルスキーフィギュア代表出身のスポーツ革新委員ソ・ジョンファ法務法人YK弁護士が「韓国スポーツの可能な発展のための学生選手学習権保障と選手育成体系改編」をテーマに発題に乗り出し、現場指導者を代表してスカッショ国家代表監督(国家代表指導者協議会長)が「大韓民国エリートスポーツ:現場で見た課題と未来方向」。保護者を代表して運動選手保護者連帯京畿支部のチエ・ジュンヒョク代表が「保護者が言う選手保護と社会的安定網」を主題に発題した。

**▶スポーツはなぜ英才教育をしてはいけないのですか?**

発題直後、フロアは熱かった。現場の国家代表出身体育人たちの先を争って質問攻勢を続けた。最低学力制、平日大会禁止、体育人に対する偏見に対して、これまで抑圧された現場の鬱憤を吐き出した。

「柔道レジェンド」金ジェボム大韓体育会競技力向上委員長が一番先に手を上げた。「2つともうまくやるのは簡単ではない。一つを捨てることで一つを得ることができる。ソ・ジョンファ弁護士は2つのことを全て上手で、私は1つだけ上手だったが、互いに違う道であって、誰がより良いとは言えない。五輪に3回出場して金メダル、銀メダルを獲得したが、メダルの色や座が人生の全てでもない」と話した。「まず、子どもたちの選択を信じなければならない。スズメや鷺が木の枝に座った時、木の枝が安全なのか心配せずに翼が丈夫なのかを見て、その翼が丈夫になるように助けることが大人のすべきこと」と話した。さらに、金委員長は、スポーツ以外の分野では、上手な子をより上手に教育しようしながら、「なぜ、スポーツは英才教育をしてはならないのか」と質問した。チョン教授は「文化、芸術家は体育特技者制度がない。授業に出なければ自主退学しなければならない英才教育は当然重要で、才能あることを熱心にすれば公教育内で適切な制度があるが、「しなくても良いと許容する」ことは有効期間になった」と答えた。

「小中レベルで成績を出すために基本技を固めるより、一日中走らせる場合もある。指導者の欲がかみ合っている。朴智星が膝の負傷で早期引退した理由になった」と話した。

#### ▶体育特技者制度、どう変えるべきでしょうか？

論議の体育特技者制度に対する熱い討論も続いた。カン・ホソク監督は「体育特技者制度は廃止または修正が必要だ。大学監督が直接リクルーティングする制度を導入しなければならない」と主張した。「例えば、大学ラグビーチームを選ぶなら、監督が最低を合わせるようにして選べばいい。大学野球監督は内野手が必要だが、試験成績のため投手を獲得しなければならない場合が一度や二度ではない。大学スポーツが発展できない」とし「特技者制度は大学スポーツをどのようにさらに活性化できるかに目標を置いて改善しなければならない」と話した。「同一系列進学条項も解除しなければならない。現行の体育特技者制度は運動選手を支援するのではなく、進路を制限する制度だ。「デュアルキャリア」が可能になるように開いてあげなければならない。米国の事例がそんなに好きなのに、なぜこのようなことは真似しないのか」と反問した。

ソ・ジョンファ弁護士は「体育特技者選考が一般学生たちが運動をするようにする要因として作用しなければならない」と主張した。「一般学生たちが運動もしてこそ大学に行けるという概念に拡張、『体育さえできれば大学に行く』ではなく『勉強と運動ができれば大学に行ける』という概念にならなければならぬ」と話した。

チョン・ヨンチョル教授は大学入試制度に校内スポーツ活動に対する加算点導入の必要性を言及した。

「西江大が入試選考にスポーツ経験で『0.1点』加算点を与えると言えば、学生たちが押し寄せるだろう。これがスポーツ文化を変えることができる。学校のスポーツクラブも高校3年生になると、入試のために辞めるのが現実だ。学校スポーツクラブの経験は大学入試記録に適用されない。3年間ずっと学校スポーツクラブ活動をしたこと、全国大会ベスト4の経験が大学入試の生活記録簿に反映され、認められる方式、入社する時もスポーツキャリアが蓄積され、社会を突破する毎関門ごとに運動をしたという事実が門を開くようになるのが私の目標だ。西江大学の中で加算点0.1点のために努力している」と強調した。

#### ▶「体育人=不正・犯罪集団」という偏見について

体育人を不正集団と決めつける社会的偏見に対する不満の声も出てきた。「同じ文化体育観光部所属なのに、なぜ韓国のスポーツ関係者だけが倫理センターが必要なのか。芸能、芸術、文化人は大丈夫なのか。文化芸術スポーツ倫理センターにならなければならない。また、スポーツ選手はワンストライクアウトで厳しく制裁し、文化芸術家たちは時間が経てば皆復帰する。なぜ誰もこんな話はしないのか」と不満を吐露した。チョン・ヨンチョル教授は「文化連帯執行委員としても活動中だが、スポーツ倫理センターに対して文化芸術家の中で『私たちはいない』として不正問題を公式的に解決する窓口があることを羨む人もいる」とし「体育界に良くないことを解決する国家機関があるということ」と説明した。

男子柔道代表チームのファン・ヒテ監督は、「レスリング、柔道、ボクシングなどは同じように練習しては絶対に外国選手に勝てない。そのようなわゆる3D種目（訳注：大変で(Difficult)、汚くて(Dirty)、危険な(Dangerous)種目と思われる）が崩れている。国際大会の出場権を獲得できずにいる。このような種目は幼い時から訓練しなければならない」と強調した後、最低学力制、人権教育と関連した偏見を辛らつに指摘した。「日本の場合、すべての学生が平均60%を超えない場合は留年する。運動選手も同じだ。――どうして運動選手だけ別に限定するのか。誤った偏見だ。日本は留年危機の生徒たちを先生たちが呼

んで教育させ、留年しないように助けてくれる。私はうちの選手の中で学校に残るように言われて勉強させる先生を見たことがない。また、指導者が選手を暴行すれば、その指導者個人が過ちを犯したのに、体育界全体をひっくるめて非難する。—大学院生を教授が殴ったからといって、それを教育界全体とは考えないのではないか。体育界に対する偏見があまりにもひどい」と話した。「スポーツ人権教育は聞いたことがあるか。国家代表監督なので指導者教育映像を見るが「これはこうだから犯罪だ」「こうすれば申告しろ」と出てくる。韓国の指導者たちは犯罪者なのか」と鬱憤をぶちまけた。「人権は尊重だ。スポーツも尊重だ。指導者は選手を尊重し、選手は指導者を尊重することだ。「このように尊重しなさい」を教えてこそ「犯罪だ、違う」、「このように申告しなさい」と教えるのがまともな人権教育なのか。どうかそのような偏見を捨ててほしい」と述べた。

#### ▶反人権的最低学力制、学生選手を支援する政策で

「陸上レジェンド」金グクヨン大韓体育会選手委員長は「最低学力制、平日競技禁止と関連して現場にも行ってみた。陸上の場合、8月午後2時に摂氏40度になるが、トラックの体感温度は200度に迫る。試合ができない。秋季大会を希望するが、中高生は学習権保障のため出場できない。選手たちがとても大変だという。「拳で殴っただけが暴行ではない」と改善を要求した。チョン教授は「(スポーツ革新委で)酷暑期、酷寒期の安全部分に対する問題まで考え、全体的に試合日数を減らす方式を目標にした。切迫した時期に名分を持って進めたが、今の状況ではその部分に明らかに改善が必要だと見られる」と話した。

「ボクシング世界チャンピオン」出身の李オクソン国家代表コーチも声を上げた。「韓国の学生選手たちに国英数の成績によって試合出場を禁止したなら、一般の学生たちも国英数が落ちれば留年させたり、卒業できなくしなければならない。運動選手は運動をして大学に行かなければならない。教育を受ける権利、学習権には国英数もあり、体育もあり、学校内のすべてが教育だ。学生選手のためのオーダーメード型教育、読書や英語教育などの方案を作つておいて政策を出せば良いと思う」と話した。「平日大会禁止と関連して選手、指導者も人間だ。休まなければならない。平日に練習し、週末大会をして家庭のある指導者は家にも帰れない。選手もいつ休むのか。選手は回復しながら発達する。このような部分も政策を投じたのなら、案を作つてほしい」と訴えた。

ソ・ジョンファ弁護士は「最低学力制に対する反感に同意する。「最低」で合ってるかな。勉強ができるこそ、一定の成績を出してこそ大会に出ることができ、考えるべき点は十分にある。学習権を保障しなければならないということと、一定の成績以上にならなければならないということには違いがある。勉強が良くできなければならないということではない。国民の誰もが受けける基本教育課程に参加しなければならないというのが学習権だ。最低学力制の基準が授業を受けて遂行評価でもすれば出てくる水準だ。最小限の参加に対する基準はなければならない」と述べた。カン・ホソク監督は「世の中にはたくさんの子供がいる。貧しい家庭の子供たちもいる。「30点を超えないのか」と言うが、世の中にはそんな遅い学習者もいる。その子供たちにとって運動は機会になる。勉強できなかつたからといって大会に出られないようにするのか、勉強できなかつたのが犯罪なのか、違うのではないか」と声を高めた。

共にするスポーツフォーラムの金テクチョン理事長は「最低学力制は2013年学校体育振興法を作る時、現場と議論なしに作られた法」としながら「学習権は勉強する機会を提供することであつて成績を出せということではない。最低学力制はそれを越えて「勉強できないのは罪」という認識を植え付けている。勉強ができなければ大会に出られない。勉強ができなければ、うまくできるように支援する方法を作らなければ

ればならない。すべての法は支援法に進化しなければならない。解決のためには廃止するのが当然だ」と述べた。「2013年から今日まで最低学力制によって韓国の学生選手たちの学力が増進されたという証拠はどこにもない。学生選手のための政策をしよう」と提言した。

#### ▶スポーツはAI時代においても唯一生き残る真の教育、

IBK企業銀行ジュニア育成チームのソン・スンリ監督はチョン・ヨンチョル教授に向かって「スポーツはそれ自体すごい教育であり学習だ。教授はスポーツを教育ではなく別個のどんなものと考えているのか」として認識と偏見に対する根本的な質問を投げかけた。チョン教授は「教育だと思う」と即答した。

「スポーツを教え、学ぶことはすべて教育の一環だ。私は専攻者であり、スポーツの価値は重要だ」とし、「(最低学力制、平日大会参加制限などと関連して)一緒に用意された装置が壊れて作動しなかった。スポーツ改革のために遭遇、科学、支援を全て入れたが、壊れてみると歯車が合わない」として物足りなさを表わした。スポーツの価値、体育教育に対する信頼を確固たるものにした。「スポーツ教育だけがこれから生き残ることができる。AI時代、結局残るのは感覚教育、芸術、文化、スポーツ、身体活動教育が唯一生き残る領域だ。スポーツ教育が残る唯一の窓口であることを認識している。明らかに教育だ」と強調した。

ムン・ヨンジュン全南フェンシング協会長は「種目団体会長の立場で最低学力制によって選手の質が落ち、運動時間が不足しているということ、保護者の反発も激しかった。お二人の思考と方向も私たちと同じ共通点が多いということが分かった。スポーツ革新委員を多く憎んだ。今日実際に会って話を聞いてみると、方向が同じ部分が多いということを確認した。これから一緒に良い方向を考えてほしい」と話した。ムン会長の言葉通り、互いの考え方と観点は違っても、スポーツに向けた愛情と真心、スポーツ価値に対する信頼は変わらないことを確認した席だった。急変する世の中で何と10年余り前に作られた法案が「その時は正しく今は違う」という体育人たちの共感、1年間に吐き出した7件の勧告案が意図とは異なり細心な装置なしに宣言的に作動し実行過程で現場と足並みがずれるほかはなかった構造、現場を尊重しない政策は必敗という教訓、この6年間体育現場で続いた苦悩と鬱憤、それでもスポーツ活動を大学入試加算点に反映し、スポーツがAI時代人類に残る唯一の教育であり行かなければならない道だという同一な見解を確認した。

この日、座長を務めたパク・ジェヒョン韓体大教授は「スポーツ革新委の勧告案は切迫した状況と過程で作られた制度だ。今日はお互いの声を確認して、お互いの立場を聞いたということで意味を整理すればいいと思う「体育市民連帯の活動が変化を導くモメンタムを作るなど肯定的に寄与した部分もある。初セミナー、初討論会は一晩中やっても足りないだろう。このような場をもっと頻繁に持つことができればと思う」と締めくくった。

歴代級に熱かつた学術シンポジウム、相反する討論の終わり、記念写真撮影時間皆が一丸となって「韓国体育、ファイト!」を叫んだ。チェ・グアンヨン韓国体育学会長は「体育界の現場で互いに異なる意見を交わすこのような意味深い場を引き続き設ける。来年4月最後の金曜日、体育週間記念学術大会がある。その時、再び体育界の懸案をテーマに選定し、討論会を進めてみる」という意志を伝えた。

出典：[https://www.chosun.com/sports/sports\\_general/2025/12/22/MM2DEYZRGZSTGZBWHBQWEODDME/](https://www.chosun.com/sports/sports_general/2025/12/22/MM2DEYZRGZSTGZBWHBQWEODDME/)

## 02 連合ニュース 2025. 12. 18

### 学校体育振興フォーラム「持続可能な学校体育生態系の構築が必要」



大韓体育会(会長柳承敏)が主催した 2025 学校体育振興フォーラムで、持続可能な学校体育生態系構築のための多様な意見が提示された。体育会は 18 日、ソウル松坡区のソウルオリンピックパークテルで「ノースポーツ (No Sports)、ノーフューチャー (No Future)、持続可能な学校体育の道を探る (探)」というテーマで学校体育振興フォーラムを開催した。

この日のフォーラムには柳承敏体育会長、国民体育振興公団のハ・ヒョンジュ理事長、韓国体育学会のチエ・グアンヨン会長、市道体育会および会員種目団体、学校体育関係者など 150 人余りが参加した。

柳承敏会長は開会の辞で「今年 3 月の就任後、スポーツ界の変化を成し遂げるために努力したが、特に学校体育改革に最も力点を置いた」とし「米国と日本を真似するよりは大韓民国らしい学校体育モデルを持たなければならない」と話を切り出した。

柳会長は続けて「大韓民国でエリートスポーツ選手として生きていくのは容易ではない。 最低学力制のために学校の授業が終わった後にも塾に行く逆差別が存在する」とし、「任期内の最低学力制を含め運動選手たちを縛り付けることを取り払おうとしている。 今回のフォーラムでは、現場にすぐに適用できる政策が議論されることを望む」と希望した

初めての主題発表に出た共にするスポーツフォーラムのキム・テクチョン理事長は「正規教育課程に配分された体育時数は『教科利己主義』の犠牲になり生徒の体育学習権縮小という結果を招いた」とし、「適正な体育時数確保と初等体育課程正常化のための制度的改善が必要だ」と主張した。

キム理事長は続けて学校運動部と関連して「学生選手の学習権を強調するが、一方では優秀選手育成の手段と見る観点が支配的」とし「学生選手が運動だけに追い込まれずに運動権と学習権が侵害されないよう法制度を整備しなければならない」と力説した。

続いてチョ・ジョンヒョン龍仁中学校首席教師が「一般学生体育活動および自律体育活性化方向」という主題で、キム・ジェウ釜山市教育庁奨学士が「学生選手政策改善方向」を主題に発表した。

キム・ジェウ奨学士は学生選手政策と関連した改善方案として▲学生選手オーダーメード型教育課程開発▲最低学力制の一貫性ある適用方案用意▲学生選手の出席認定許容日数の特性を考慮した適用▲人権親和的方式の学生選手合宿所政策議論などを提案した。

総合討論に出た湖西大学社会体育科のチュ・ジョンミ教授は、キム・ジェウ奨学士の発表と関連して、最低学力制が学生選手の学習権を保護するという名目の下で導入されたにもかかわらず、逆説的に進路と競技参加を制限しているとし「廃止」を主張した。

チュ教授は「最低学力制は学生選手だけに学力基準を賦課し、基準未達時に競技出場禁止という制裁を賦課することにより憲法上の過剰禁止原則に違反している」とし、「学習権保障のための最低学力制が果たして法令で規定する事案なのか再議論が必要だ」と強調した。

一方、体育会は学生選手たちが学習と運動を並行する現実を十分に考慮していない制度のために、競技力向上と進路選択に困難を来たしていると判断し、学生選手政策改革課題ロードマップを作つて制度改善を推進してきた。

出典：<https://www.yna.co.kr/view/AKR20251216161000007>

03 ハンギョレ 21 2025. 12. 19

## 「〇〇大学体育特技生として入学させる」 2000 万ウォンを受け取った野球部監督を暴露して起きた出来事



高校野球部監督の各種不正疑惑を暴露し是正を要求したコーチが、かえって学校と保護者から人事上の不利益を受け、事実上「口止め」を強要されたことが確認された。コーチの暴露を黙殺した学校は、管轄教育支援庁の監査と告発を契機に野球部をクラブに転換し、事実上形骸化する作業に着手した。不正疑惑が芽生えた構造は無視したまま、これを表わした人と現場を除去する、スポーツ界の慢性的な弊害が再び現れたという指摘が出ている。

京畿道華城西部警察署は2025年10月15日、華城市飛鳳高等学校野球部監督チョン某氏の横領と背任収賄疑惑を認め、起訴意見で検察に渡した。ハンギョレ21が入手した送致決定書によれば、警察は「チョン監督はKBO(韓国野球委員会)から受け取った野球ボールを知人に処分し280万ウォンを入金され個人的な用途で使った」として横領疑惑があると判断した。背任収賄疑惑については「2023年3学年保護者であるユ某さんに『檀国大体育特技生として入学させる』として金品を要求し現金2千万ウォンを受け取った」と説明した。

「監督を詐欺師にするのか」通報者を非難した保護者たち

警察の捜査はビボン高校野球部首席コーチの金ヒョンナム(仮名)氏の暴露に触発された。金コーチが2024年10月7日、チョン監督の色々な不正行為を学校に知らせたが受け入れられなかつたため、同年11月25日華城烏山教育支援庁(烏山教育支援庁)に情報提供したためだ。烏山教育支援庁はビボン高校を相手に服務監査に着手する一方、児童虐待および背任収賄と横領疑惑については「情況が疑わしい」と判断し2025年2月にチョン監督を警察に告発した。金コーチが問題を提起してから約1年ぶりに事件が検察に渡されたのだ。

その1年の間、金コーチは「野球部を騒がせた」という理由で保護者たちの集中非難を受けた。金コーチが公開場所で監督の不正疑惑を提起し、教育支援庁まで介入して雑音が出ると、野球部の学生6人が転校し、チームが揺れたためだ。これに対し保護者たちは2024年12月6日、金コーチの再契約撤回と転地訓練参加排除などを議論した。これに参加した保護者A氏はハンギョレ21との電話インタビューで「当時、保護者たちは監督が(コーチを)育てようとあんなに努力したのに、監督をむしろ詐欺師にすると受け入れた。監督の言葉だけを聞いて、金コーチを早くこの学校から追い出さなければならないと思った」と打ち明けた。

非難の強度は2025年に入ってさらに強くなった。保護者会長のN氏は2025年3月、校内野球場の垣根に「野球部を瓦解させる金ヒョンナムは自ら辞退せよ」という文が書かれた広げ幕を掲げた。N氏は「当時は不必要的嘆願を多数提起し学生たちが転校するなどチームが瓦解した」として「監督とコーチが戦いチームがめちゃくちゃになったので誰かは野球部を出てこそ正常化するのではないか」と反問した。N氏を中心に集まった保護者たちは野球部指導者たちの賃金が自分たちのポケットから出てくる状況を挙論し、学校に「分担金を払わない」と明らかにした後、金コーチの解任を強力に要求したりもした。

学校は2025年3月、金コーチを首席コーチから一般コーチに降格させ、年俸が1200万ウォンほど削減された契約書を突きつけた。「道義的な責任感を感じた」という金コーチは文句なしにこれを受け入れた。

金コーチは「10回も100回も辞めて出て行こうかと思ったが、選手たちとチームのことを考えた。 私一人で生きることを諦めて手放すことはできなかった」と話した。

学校は警察捜査を見守るという立場を固守したが、9月からは野球部を解体してクラブに切り替える作業に着手した。 華城市体育会は10月29日「野球部は華城市高校野球の象徴的存在」としてクラブ転換反対意見を出したが、学校は受け入れなかった。 野球部をクラブに転換すれば華城市体育会から用品および大会出場支援(食費・宿泊費など)名目で提供された約1億ウォンを受け取れず、公立の飛鳳野球場も無料で使用できなくなる。

ビボン高は「腐敗には目をつぶって選手の未来を知らない」

それでも学校はクラブ転換にともなう不利益をきちんと告知せず「クラブ転換に反対すれば転校以外に方法がない」と保護者に案内した。 また10月28日、野球部指導者たちには「クラブへの転換」を理由に「勤労契約解約」を通知した。 相当数の保護者の猛烈な反対にぶつかった学校は11月2日「クラブ転換反対」に確定した保護者投票を受け入れてからクラブ転換を暫定中断した。

25年12月、金コーチは学校運動部指導者勤務成績評定表で100点満点中43.2点を受けた。 2024年の評点(92点)に比べて半分になった水準だが、勤労契約書上の60点以下は契約解約理由だ。 指導教師と体育部長、野球部の保護者3人で構成された評価委員会が指導者評点をつける。 評価に参加した保護者A氏は「合理的な点数ではない。 残りの保護者2人は監督の側に立って金コーチを何とか送り出したいと思っている」と話した。 金コーチは「契約撤回」の可能性を考慮して評価点数に異議を提起したが棄却された。 18年の野球部創設と同時にコーチを務めた金コーチにとって、ビボン高校野球部は職場以上の意味を持つ。 彼は「監督の横暴として利用され傷ついた選手たちを考えればコーチであり大人として申し訳ないだけ」とし「選手時代から野球で飯を30年食べた者として追加被害を防ごうと勇気を出し、1年間孤独で凄絶に持ちこたえた」と訴えた。

ビボン高校のチョン・ホチョル教頭は「金コーチの勤務評価と再契約可否は関係ない」という立場だ。 チョン教頭は「金コーチにもこれを正確に知らせた」と話した。 野球部のクラブ転換の背景を問う質問には「学内のすべての問題が野球部に埋没した。 一連のことが繰り返された結果、学校の立場では「野球部の沼」に陥ったと考える」として「上級機関の監査まで受けながら野球部の寮運営など慣行的にしてきた部分をこれ以上はできないのでクラブ転換を考慮せざるをえない。 2026年11月を目標にクラブに変えようとしている」と説明した。

野球部監督「もらったお金は借りたお金…… 償還した」

チョン監督は、「父兄との金銭取引は認めるが、潔白を主張する。 彼はハンギョレ21との電話インタビューで、「野球ボールは知人に貸したが、返してもらった。 父兄のユ氏は幼年時代から知り合いの町内の兄だ。 4千万ウォンを借りて返した」とし、「入金と償還内訳の両方が存在し、警察にも資料を提出した。 檢察が悔しさを晴らすことを持っている」と釈明した。

「野球部は保護者のお金だけで運営されます。 だから学校の立場では「それはお前たちの戦いだ」という態度で深く関与しません。 外から見る時、ビボン高校野球部の問題であり、学校の問題ではないんですよ。」チョン監督から漢陽大学進学を代価に「4千万ウォンを要求された」と告白した保護者D氏は今回の事態をこのように振り返った。

出典：[https://h21.hani.co.kr/arti/society/society\\_general/58547.html](https://h21.hani.co.kr/arti/society/society_general/58547.html)

## 04 スポーツ 造船 2025.12.22

### 「廃校→未来学校体育のメッカ」京畿学生スポーツセンターの良い例 開館4年で「8809人」訪問者急増



「未来学校体育のメッカ」京畿学生スポーツセンターが2025年の一年間、京畿道学生たちの健康増進と未来体育教育革新を導き注目すべき成果を上げた。

京畿学生スポーツセンターは、学生数の減少で廃校した京畿道龍仁市器興区所在の器興中学校を2021年、京畿道教育庁と龍仁市が協力し、京畿道内の学生のためのスポーツ施設として再誕生させた空間だ。

デジタルバスケットボール台、センサー基盤フットサル場、スマート装備結合のヘルス施設、最新式教具および施設を備え、専門研究員5人以上が常駐し、学生たちの安全な体育活動を支援する。研究、研修、体験を3軸に自律、均衡、未来の価値を実現した京畿学生スポーツセンターの運営は、学校体育の新しい場を開いたという評価を受けている。学生たちの五感を虜にするスマートなハードウェアはもちろん、コンテンツ、プログラム、教育共同体の側面でも他の試みの模範になるほどの革新的な試みだ。

#### ▶学生「五感満足」体験プログラム… 訪問客急増

京畿学生スポーツセンターは毎年訪問客が急増し、その必要性と人気を立証している。今年は道内の学生、教職員を含め計8809人が京畿学生スポーツセンターを訪れた。2024年(7269人)比1500人以上増えた数値であり、開館初年度の新型コロナウイルス感染症の拡散により600人にとどまったことに比べれば、4年ぶりの最多人員、爆発的成長の勢いだ。

2025年の体験領域では学校では経験できない多様な空間と施設を中心にデジタルおよび身体活動中心の多様な水準別プログラムを提供することに注力している。特に健康体力向上型体験を通じて京畿学生スポーツセンター内のすべての体験室を活用した学級別体験が行われ、センサー基盤で進行されるデジタルフットサル、運動エネルギーが電気エネルギーに変わりミニカーレースをするバイクレーシング活動など多様なコンテンツが人気を集めた。地域オーダーメード型チームプロジェクトは、龍人形共有学校と連携して協同、挑戦、分かち合い中心のコンテンツと学生が自己主導的に参加できる自己主導スマートスポーツ活動などが行われた。休み中の特別プログラムとしては、スポーツ基盤の人性教育プログラムなどが運営された。生徒、保護者、家族、教師など教育共同体がセンターを効率的に利用できるように事前踏査および探訪案内、研修活動、イベントプログラムも持続的に運営された。

#### ▶「未来体育のあり方提示」専門性の高い研修プログラム

京畿学生スポーツセンターは、教師らの体育授業の専門性や学生実技指導の力量強化にも集中した。小中学校の教員実技研修とスマート体育教員研修が活発に行われ、現場教師たちの申請熱気が熱かった。進路教育分野では体育系列の進路希望学生を対象に進路教育説明会を開催し、学生たちの未来設計を助けた。京畿学生スポーツセンターは、未来学校の体育の中心軸としての役割を続けている。雨天、猛暑、粒子状物質など外部環境要因の制約のない室内運動施設造成を支援し、デジタルに慣れている中・高校生の目線に合うコンテンツで体育活動活性化を図る計画だ。特に市・空間の制限を飛び越える体育活動コンテンツの多様化を通じて未来体育の方向を提示している。

#### ▶2026年スポーツ・芸術融合と学生主導型体験プログラム支援

京畿学生スポーツセンターは2026年の新年にも学生主導の体育活動が日常に染み込み、経験の深さを増す一年を作るために努力する計画だ。京畿学校芸術創作所と連係した1日型スポーツ・芸術融合プログラムを通じて学生たちの健康および創意的な成長を支援し、学生たちが直接スポーツ行事を企画・運営・広報する学生主導型体験プログラムを通じて子供たちが主体的な市民に成長できるようプログラムを運営支援する予定だ。

京畿学生スポーツセンターの関係者は「地域と学校をつなぐ開放と共有のスポーツ文化複合空間として学生主導の日常化を支援する融合複合体育の中心空間になる。2026年にも子供たちがスポーツを通じて体と心の筋肉と一緒に育てられるよう最善を尽くす」と明らかにした。

出典：[https://www.chosun.com/sports/sports\\_general/2025/12/22/MQ3WKY3GMJTDQMTFMQ2DMY3GMQ/](https://www.chosun.com/sports/sports_general/2025/12/22/MQ3WKY3GMJTDQMTFMQ2DMY3GMQ/)

## 05 武芸新聞 2025.12.17

### 大韓体育会長選挙制度改善論議本格化…23日、国会で公聴会開催



大韓体育会長選挙制度の改善をめぐる公論の場が国会で開かれる。大韓体育会は23日午後2時、国会議員会館第1小会議室で「大韓体育会長選挙制度改善公聴会」を開催すると明らかにした。

今回の公聴会は国会文化体育観光委員会所属の共に民主党のイム・オギョン、チョ・ゲウォン議員と国民の力のチン・ジョンオ議員が共同で主催し、大韓体育会が主管する。文化体育観光部と中央選挙管理委員会が後援に参加する。公聴会では現行の大韓体育会長選挙制度の問題点を点検し、制度の公正性と代表性を高めるための改善方向を集中的に議論する予定だ。

大韓体育会長選挙は2016年から「国民体育振興法」と「公共団体など委託選挙に関する法律」により全国単位選挙人団が参加する間接選挙方式で行われてきた。中央選挙管理委員会に選挙管理を義務委託する制度を通じて公正性は一定部分確保されたが、選挙人数が制限されていて代表性が不足しているという指摘は持続的に提起されてきた。2021年と2025年の2度の会長選挙を経て、変化した体育環境を反映した制度改善の必要性も大きくなつた。

大韓体育会は第42代会長選挙以後の3月、選挙分野と法曹界、体育学界専門家、体育団体関係者など11人で構成された「体育団体選挙制度改善委員会」をスタートさせ制度全般に対する検討を進めてきた。同時に韓国スポーツエンターテインメント法学会に研究用役を任せ現行制度の構造的限界を分析した。

この過程で、国会の国政監査でも大韓体育会長選挙の代表性問題が俎上に載せられた。チョ・ゲウォン議員は選挙人拡大の必要性を公に提起し、柳承敏大韓体育会長も制度改善議論に共感の意を明らかにした経緯がある。

公聴会では、金デヒ国立釜慶大学教授と金デニヨン体育団体選挙制度改善委員長が主題発表に出る。続いて、韓国スポーツエンターテインメント法学会長のナム・ギヨンを座長として学界と法曹界、行政機関、体育界の関係者たちが参加する討論と質疑応答が行われる。

現在議論中の改善案には、登録競技者全員に選挙権を付与する直接選挙制の導入をはじめ、選挙運動の自由拡大、モバイル投票の導入、候補者資格要件の強化などが含まれている。これは選挙参加を広げると同時に、選挙過程の透明性と接近性を高めるための案として提示されている。

大韓体育会は今回の公聴会を通じて多様な現場意見を取りまとめ社会的合意を導き出した後、これを土台に最終的な制度改編案を用意する計画だ。 体育団体の関係者や選手、指導者、同好人はもとより、一般市民も公聴会に出席できる。

出典：<https://www.mooye.net/25965>

## 体育市民連帯オンライン 定期後援案内

万人が楽しむスポーツ世界、体育市民連帯が共に作ります。  
私達連帯の活動に積極的に賛同していただくことを願います。

私たち体育市民連帯は体育人の権益保護と  
福祉実現のために努力しています。  
皆さんの小さな心づかいがより良い世界のための  
体育市民連帯活動に強固な土台となります。  
体育市民連帯会員として力になろうと  
される方は下の口座に後援お願いします。

国民銀行 086601-04-095940

口座名義：体育市民連帯

オンライン定期後援は下のリンクを通じてホームページからできます。  
多くの関心をお願いします。

体育市民連帯 ソウル市 瑞草区 瑞草洞 孝寧路 230 スンジョンビル 407号

Tel : 02-2279-8999、E-mail : sports-cm@hanmail.net ホームページ：<http://www.sportscm.org/>

日本語訳：佐藤好行 新日本スポーツ連盟 国際活動局 韓国担当 jr1fep@gmail.com

週刊ニュースレターバックナンバー（資料室） <http://www.yg.jpn.org/sportscm/index.html>